

# 平成26年度事業報告



学校法人 城星学園

## はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、平成26年度において様々な取り組みを実施した。特に平成26年度は学園創立者ドン・ボスコ生誕200周年を迎え、学園全体で様々な記念行事を開催した。「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表されるドン・ボスコの教育理念は、現代社会においてますます求められている。学園の建学の精神のもとに各校種が一つになって、今一度ドン・ボスコの教育理念に立ち返り、今後も充実した教育活動等を推進していく。

今後も、幼小中高の各教育活動が展開される中で、子どもの成長に合わせて、一貫した教育理念のもとで教育できる総合学園としての強みを活かし、学園が一つになって教育活動に努めていくことが使命である。近年、特に小学校から中学校への内部進学者が減少しており、教育改革、広報活動強化、小中連携活動の実施を通じて改善をはかりたい。

また、外部より情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められている点について、学園後援会との連携のもとにより積極的な評価活動を実施し、学園の教育活動に活かすとともに、情報発信に努めたい。

### 《平成26年度取り組み事例》

- ・各校種の教育活動及び広報活動等（各校種の活動報告参照）
- ・各校種の自己評価及び学校評価の実施。（学園ホームページ掲載）
- ・中高の2015年に向けた教育改革（15改革）の実施準備。
- ・幼稚園の未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施
- ・災害用緊急電話の設置、備蓄品の充実
- ・ドン・ボスコ生誕200周年記念事業の実施
- ・守衛・警備の強化
- ・学園広報活動の充実（各校種の活動報告参照）
- ・JAT（城星学園課外教育活動）プログラムの実施

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

## 1. 法人の概要

**建学の精神** : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

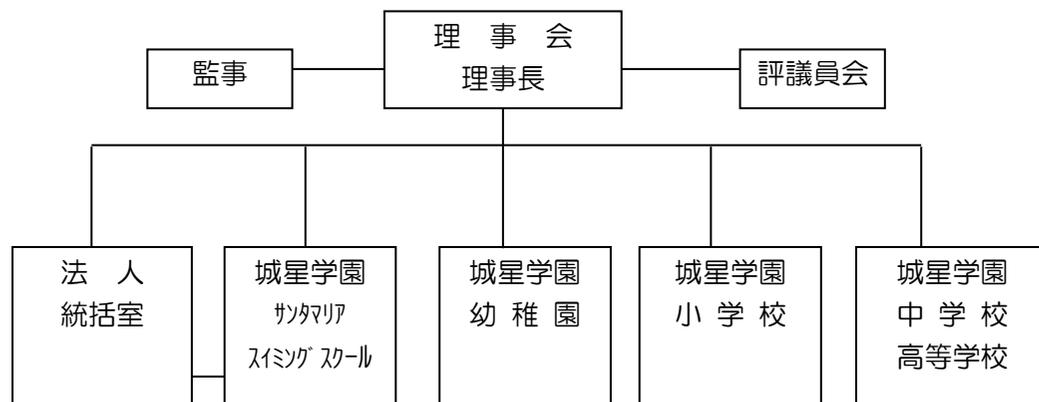
**所在地** 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

**法人成立の年月日** 昭和28年3月25日

### 学校設置認可年月日

幼稚園 昭和28年3月16日  
小学校 昭和28年3月16日  
中学校 昭和34年2月27日  
高等学校 昭和37年1月14日

### 学校法人 城星学園 組織図 (平成25年10月1日現在)



## 1) 設置学校及びクラス数

(平成27年度)

城星学園幼稚園 9クラス: 3年保育3クラス、2年保育3クラス、1年保育3クラス

城星学園小学校 18クラス: 1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、4年3クラス、5年3クラス、6年3クラス

城星学園中学校 4クラス: 1年 1クラス

2年 1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス

城星学園高等学校 9クラス: 1年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(全日制普通科) 2年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

(平成26年度)

城星学園幼稚園 9クラス: 3年保育3クラス、2年保育3クラス、1年保育3クラス

城星学園小学校 18クラス: 1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、4年3クラス、5年3クラス、6年3クラス

城星学園中学校 5クラス: 1年 総合進学コース、特別進学コース併せて1クラス

2年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス

城星学園高等学校 11クラス: 1年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(全日制普通科) 2年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

3年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

2)定員および在籍者数(各5月1日現在、平成27年度のみ見込み)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年 度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
平成 27	9	276	18	575	4	60	9	219	1,130	△10
平成 26	9	259	18	570	5	60	10	251	1,140	△17

3)役員等・教職員

役員等:

年 度	理事	監事	評議員
平成 27	8人	2人	17人
平成 26	9人	2人	19人

教職員:

(人)

年度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			SS			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他										
平成27	15	2	4	25	8	1	7	3	1	17	7	13	8	2	2	2	4	13	134
	計 21			計 34			計 11			計 37			計 12			計 19			
平成26	14	2	4	27	5	2	5	7	1	20	6	12	10	2	1	2	3	13	136
	計 20			計 34			計 13			計 38			計 13			計 18			

4) 役員会の開催予定

① 理事会・評議員会

理事会: 平成26年 5月  
 平成26年 9月  
 平成26年12月  
 平成27年 3月

評議員会: 平成26年 5月  
 平成27年 3月

② 監査: 平成26年 5月

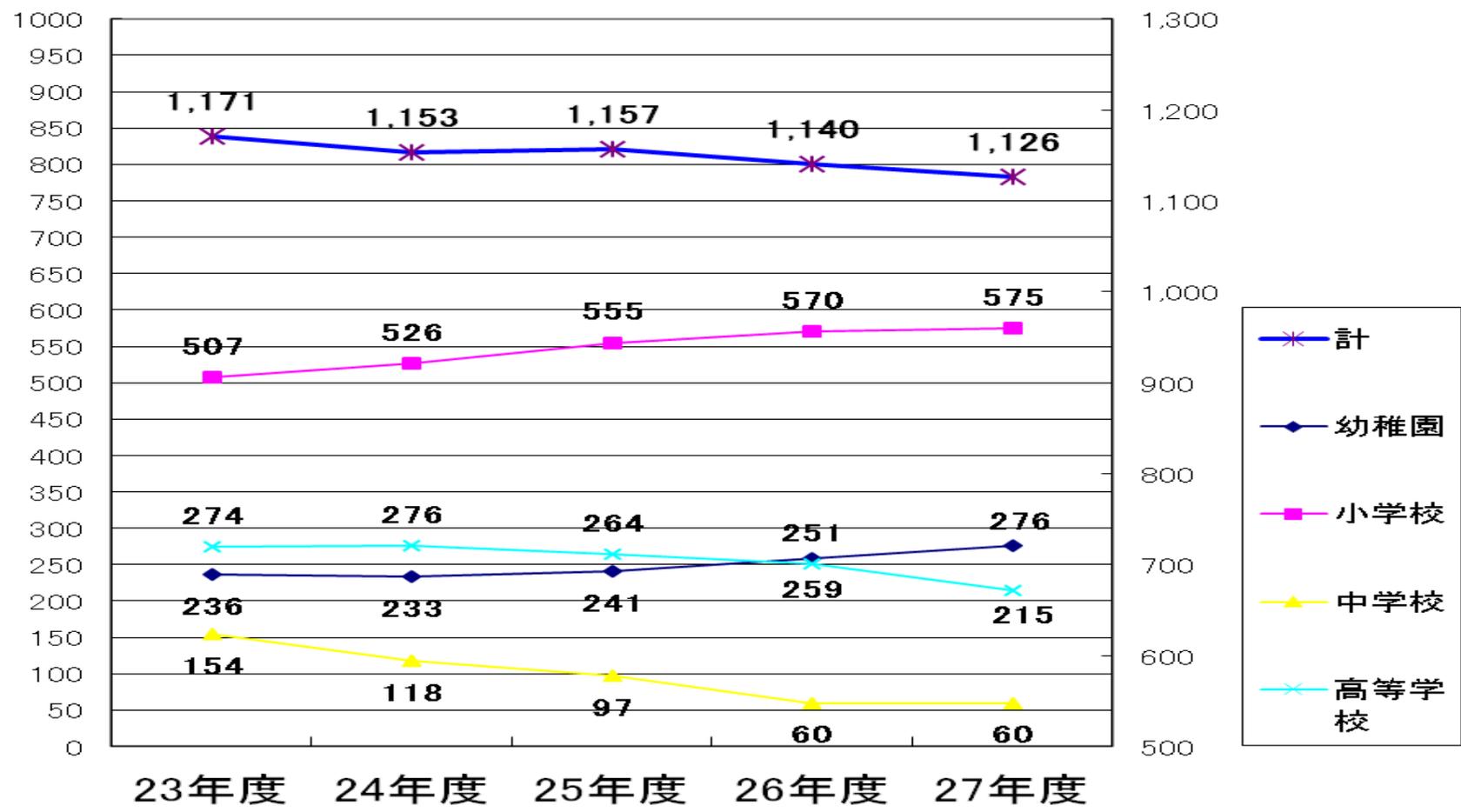
1) 募集計画及び教育計画等

平成27年度は、平成27年3月18日現在。

( )は内部進学者数。 ※別途入園者含む。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
平成 28	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	40	75
平成 27	新入生募集人員	80	20	若干名	100	40	75
	志願者数	124	8	1	181	42	86
	受験者数	124	8	1	175	38	86
	合格者数	106	6	0	126	38	86
	入学者数	101	5	0	105(33)	19(6)	64(15)
平成 26	新入生募集人員	80	20	若干名	100	75	105
	志願者数	116	8	1	167	25	95
	合格者数	100	8	1	122	23	93
	入学者数	90	8	1	103(38)	14(6)	73(46)

生徒数推移



# 1) 教育活動報告：幼稚園 ー ドン・ボスコの生き方にならい、神さまの呼びかけに応じて歩もうー

## 目指す園児像 : きれいな心、明るい子ども

子どもたちは、自ら学ぶ意欲、考える力、表現する力

善を行なう勇気を内に秘めている。その力が発揮できる環境づくりに励む。

平成26年度 事業計画	報告
<p>◇ <b>愛されているわたしたち 大切なひとりひとり。(共に育つ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 慈しみ深い神の存在を知り、祈りと賛美、感謝する心を持つ。</li> <li>・ 温かい雰囲気の中で自分の居場所を見つけることができる。</li> <li>・ いろいろな人との関わりの中で互いの「よさ」に気づき認め合う。</li> <li>・ 周囲を信頼し、気持ちがつながることをうれしく思い、共に生活することを喜ぶ。</li> <li>・ 保育者や仲間から「自分が認められる」喜びを味わい、素直に心をひらく。</li> <li>・ 関わりの中で気持ちを調整する力をつけ、思いを伝え合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D・B 生誕 200 周年の開幕の年にあたり種々の行事の中に、D・B を意識して取り入れ、生き方に少しでも近づけるように心がけた。</li> <li>・ 宗教教育、宗教的な雰囲気を大切に、子どもたちに神を伝える努力をした。</li> <li>・ 予防教育法に精神に従い、子ども一人ひとりと向き合い、明るく、笑顔で対応するように心がけた。</li> </ul> <p>(特記事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由遊びの時間が楽しくなった。子どもたち一人ひとりが自分の遊びを見つけ、夢中になって遊ぶ姿が見られた。</li> <li>・ 年少児の中にも自分の思いをことばで素直に表現する姿が見られるようになった。</li> <li>・ 人としての温もりのある関わりの中で子どもが素直になり、内面が少しわかるようになった。</li> <li>・ 子どもの心に届くようにと心がけて活動の内容を分かりやすく伝えたことによって自発的に活動に取り組めるようになった。</li> </ul>

◇ **自分で、自分から（自立と自律）**

- ・友達と一緒に協力して、遊びを創り出し、課題を解決していく力をつける。
- ・遊びの中で楽しみ、試し、工夫し、見通しをもって遊びを発展させることができるようになる。 —興味・広がり・深まり・自己を調整する力・気づき・達成感—
- ・共にひとつの目標に向かって活動する中で協調性と責任感を培う。
- ・自分で考えて判断して行動できるようになる。
- ・ケンカやケガなど偶然に起きる体験を積み重ねることで、予期しない出来事にも自力で対応し、解決できるようになる。
- ・共通の経験で遊びの方向性やイメージを共有したり、お互いの経験を生かす力を育てる。
- ・共に生活するために必要な習慣や態度を身につける。  
—あいさつをする・ルールを守る・ゆるし合う体験・基本的な生活習慣—
- ・危険な場所、危険な遊び方、災害時の行動の仕方がわかり、安全の気をつけて遊ぶ。

◇ **ひびき合う心、豊かな感性**

- ・保育者や友だちと共にいる喜びの中で自分を素直に表現できるようになる。
- ・遊びを通して独立心と豊かな感性を培い、他人を思いやる気持ちや助け合う心を培う。
- ・野菜栽培や調理活動を通して食べることへの興味関心を持つ。
- ・植物や動物といった身近な自然との触れ合いを通して、いのちの不思議さ、すばらしさに気づき、いのちの大切さを学ぶ。
- ・保育者と共に季節の移ろいを感じ取ったり、小さなことに感動しながら感性を磨く。
- ・世界の人々、特に困っている人に目を向け、何ができるかを考える。

- ・子どもたちと関わる時には人として温もりのある触れ合いを大切にしよう心がけた。
- ・自分のことは自分で出来るように励まし、「出来た！」と言う達成感をもたせるためにさりげなく援助するように心がけた。

(特記事項)

- ・あいさつの大切さを理解できるようになってきているが、まだ、恥ずかしさのためにできない子供もいる。
- ・安全指導、特に避難訓練がマンネリ化しているので予期しない事態を想定してした訓練が必要だと反省している。
- ・自然観察が園内だけに限られて、園外へ出かけていく取り組みが少なかった。
- ・困っているということが理解できていない。説明すると理解できたように見えるが、本当に理解しているとは思えないことがある。理解させることの難しさを感じる。
- ・素材研究は十分にできているとは言えない。

◇ **遊びの環境づくり**

- ・子どもの存在そのものを認め、信頼関係を深めて安心感をもたせる。
- ・子どもの自発的な遊びを自発的な遊びを発展させ、充実させるために遊びを見通す目を養い、教材の準備や教材研究に励む。
- ・「やってみたい」と思える材料や素材を身近に用意し、継続して遊べる空間や時間を保証する。
- ・基礎・基本を大切にし、わかりやすく、順序を追って、しっかりと伝え、子どもの遊びが進展する力をつける。

◇ **特別活動**

- ・英語教室・音楽指導・ことばの指導・体育教室を実施し、子どもの基礎能力を培う。

- ・自発的な遊びを誘発するために基礎・基本をしっかり教えると共に環境設定に意を用いた。
- ・子どもたちが活動に自発的に取り組めるように一日の流れを分かりやすく伝えることができるよう工夫した。

(特記事項)

- ・体育教室を取り入れて2年目。子どもたちの動きに規律や機敏さが見られるようになった。

## 2) 募集活動報告：幼稚園

平成26年度 事業計画	報告								
<p>(要項、リーフレットなどの作成)</p> <table border="0"> <tr> <td>募集要項</td> <td>300部</td> </tr> <tr> <td>ポスター</td> <td>10部</td> </tr> <tr> <td>行事案内</td> <td>500部</td> </tr> </table>	募集要項	300部	ポスター	10部	行事案内	500部	<p>予定通り作成し、配布。</p>		
募集要項	300部								
ポスター	10部								
行事案内	500部								
<p>(学校説明会(学園内外)の開催)</p> <table border="0"> <tr> <td>入試説明会</td> <td>9月に2回実施</td> </tr> <tr> <td>幼稚園見学会</td> <td>6月～9月の毎火曜日 11回実施</td> </tr> <tr> <td>親子で遊ぼう</td> <td>6月、7月、9月 4回実施</td> </tr> <tr> <td>体験ひろば</td> <td>4月～3月 毎月3回実施</td> </tr> </table> <p>体験ひろばは、例年、6月～1月の期間に行っていたが通年(4月～3月)行うことにした。</p>	入試説明会	9月に2回実施	幼稚園見学会	6月～9月の毎火曜日 11回実施	親子で遊ぼう	6月、7月、9月 4回実施	体験ひろば	4月～3月 毎月3回実施	<p>入試説明会(2回) 約200組参加 見学会(11回) 延228組参加 親子で遊ぼう(4回) 延196組参加 体験ひろば 3グループ、60組参加 (特記事項) 体験ひろばは応募者が多く、H.Pで募集をかけて、初日に満席になるほどであった。 ひろばからの27年度の入園希望者は60名中、49名である。</p>
入試説明会	9月に2回実施								
幼稚園見学会	6月～9月の毎火曜日 11回実施								
親子で遊ぼう	6月、7月、9月 4回実施								
体験ひろば	4月～3月 毎月3回実施								
<p>(学校・塾訪問)</p> <p>塾の要請を受けると共に、ポスターの配布等積極的に働きかけ、説明会・幼稚園紹介の場を提供していただく。</p> <p>例年 4～5塾</p>	<p>塾説明会 3塾 出願者 6塾から20名</p>								

<p>(広告媒体の活用)</p> <p>学園のホームページに掲載</p> <p>大阪私立幼稚園ガイドブックに掲載</p> <p>大阪府私立幼稚園連盟のホームページに掲載</p>	<p>同左</p>
--	-----------

<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 保育内容の充実を図り、保護者と地域の満足度を高める。</li><li>・ 保護者への PR と幼稚園の紹介を依頼する。</li><li>・ 保護者との信頼関係を築く努力をする。</li></ul>	<p>保護者会、見学会等、募集への取り組みを通して PR に努めた。</p>
---	--

### 3) その他：幼稚園

平成26年度 事業計画	報告
<p>幼稚園（教職員研修等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修（テーマ：ドン・ボスコを知り、倣う）</li> <li>    研究保育（年間5回）、学期末研修（年間3回）</li> <li>    研究保育：研究テーマにそって、学年ごとに研究を行い、相互の研鑽と保育の向上を図る。</li> <li>    学期末研修：研究テーマにそって、保育研究の実践のまとめの発表。</li> <li>    新任教師研修会（年2回）</li> <li>    音楽リズムの研修（HANA 音楽研修所）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪大司教区カトリック幼児教育協議会主催の研修会</li> <li>    教職員研修大会（年2回）、園長研修会（年2回）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府私立幼稚園連盟主催の研修会</li> <li>・大阪府主催の研修会</li> <li>・その他、必要に応じて研修・セミナー等に参加する。</li> </ul> <p>※26年度は、創立者（D・B）の精神を深め、予防教育法の研究と実践に力を入れる。</p>	<p>計画通りに実施</p> <p>ドン・ボスコ生誕200周年にあたり、教育法を深め、毎日のミーティングでドン・ボスコのことばを輪読し、創立者の教育を意識して深めた。</p> <p>今年度は、絵画制作に力を入れた。</p>

# 1) 教育活動報告：小学校

## ドンボスコの心で教育しよう

平成26年度 事業計画	報告
<p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・善悪の判断ができる子に育成するため、実態に対処しうる研修を実施し指導力をつける。</li><li>・私たちが目指す全人教育、特に善悪を伴う判断と行動に対して、的確な指導と、保護者への正しい啓蒙を図ると共に協力を呼び掛ける。</li><li>・集団生活の秩序を保つため、規範意識を高めるよう教師全員が共通意識をもって指導していく。</li><li>・中学年後期より高学年に至って過熱する中学校受験が、子どもたちの健全な心の成長を妨げている実情を親に知らせ、共に考えていくための学年保護者会を、実施していく。</li></ul>	<p>各学期末に各学級の特出すべき、問題を抱えた児童についての報告会をもち、共通理解を図り、全教員で指導するよう努めた。</p> <p>防犯、薬物乱用防止、サイバー犯罪、非行防止、交通・自転車安全などの教室を実施した。</p> <p>夏季教員一泊黙想会の課題として、「教師の威厳」「道理と規則」を取り上げ各自で考察しまとめた上で、分かち合いを行った。</p> <p>学年懇談会において呼びかけた。</p> <p>(特記事項)</p> <p>教員一丸となって、指導を強化したが、さらに根気強く継続していくことが求められる。</p> <p>非常に難しい課題に取り組んだ。</p> <p>今後も引き続き深めていかなければならないテーマである。</p> <p>アシステンツァの強化で導いていく。</p>

<p>(実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アシステンツァの励行強化</li> <li>・ストレンナやドン・ボスコの教育法に関する本を読み深め、その実践に努める。</li> <li>・ドン・ボスコの研修や夏の黙想会の課題に取り組み、話し合い等によって、実践に生かしていく。</li> <li>・細やかな指導、学級通信等を通して、保護者からの信頼度の向上に努める。</li> <li>・校長(教頭)による、1年生の母親教室(年6回)及び、ドン・ボスコ勉強会(A,B,Cの3グループ構成で年5回)を通して、教育観の一体化を図る。</li> </ul>	<p>特に休み時間運動場で児童と共に過ごすよう心がけてきた。</p> <p>D・B生誕200周年に向けて積み重ねてきた課題からまとめの年として、さらに深め実践へと繋げた。</p> <p>毎日、D・Bの言葉を黒板に書いた。</p> <p>本年度は、学級通信のみならず、教科通信の発行にも取り組んだ。</p> <p>(特記事項)</p> <p>教員によって温度差がみられた。</p> <p>各教師が、自分自身を振り返る機会となり、また同僚の思いや考えを聞くことでさらに深めることができた。また、教員の一致とチーム力の強化に繋がった。</p> <p>H.P、城星だより、教科・学級通信の発行も保護者への情報伝達として重要であるが、何よりも日々の児童一人ひとりとの関わりを通して、互いの信頼関係が築かれるものである。</p> <p>保護者自身の規範意識が希薄になりつつある。そこで学校は、毅然とした姿勢を保ち、啓蒙していく必要がある。特に保護者参加の行事でのマナーの低下が目立ってきた。</p>
---	---

<p>・<b>授業研究と研鑽</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研究授業(年8回)での授業力向上を図る。国語科においては、今まで積み上げてきた本校の指導法などが廃れないように、新任にも継承していくため研修の場を設ける(研修計画に盛り込む)。</li> <li>・算数科においては、ほぼ完了した本学独自の計算体系を脱し、他領域他単元への授業実践に取り組む。</li> <li>・専科授業も研究授業に必ず加え、その専門性を多角的に高めていく。また、教科書のレベルに留まらず、発展的な指導内容の授業を企図する。</li> </ul>	<p>ミッションスクールとしての姿勢を保護者に理解していただくことで、学校と家庭が一体となり、教育効果が高まるものであるという観点で、話題を練って行った。また、ドン・ボスコの教育への理解が深まるように働きかけた。</p> <p>教科部長が、率先して初任者に対して授業を公開し継承していこうという努力が見られた。</p> <p>教科担当者各自が、教材発掘に取り組んだ。</p> <p>また、西私小連「半日研修会・算数部会」の会場校となり他校の先生方に授業3本を公開した上、ご意見を伺った。</p> <p>(特記事項)</p> <p>専科教員であっても、本校独自の教式を理解しておくべきであり、研究授業後の検討会でも意見が述べられるよう心がけていかなければならない。</p> <p>井の中の蛙となり易い私学教員であるので、これを機会にさらに外へも目を向け本校のさらなる発展に努めなければならない。</p>
--	--

<p>・<u>高学年での専科担任制の充実を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専科担任制の利点を探り、最大限に生かしていく。</li> <li>・学年団のチーム力を強固にし、多くの目で子どもを見ていく。</li> </ul>	<p>音楽科と理科の研究授業を実施した。</p> <p>5,6年生ともに利点を活かした学年経営を心がけた。4年生においても2学期後半から徐々に専科制へと切り替えていった。</p> <p>低・中・高の学年団、各学年団での活動を工夫し、当該学級のみの問題として取り上げず、教師集団で問題解決へと取り組んだ。</p> <p>(特記事項)</p> <p>専門性を高める個人研究からさらに、外部の研修会への積極的な参加が望まれる。</p> <p>専科制導入3年目を迎え、担当者はその良さを実感している。しかし、単独となるため、教科内容の話し合いが乏しくなるため、今後教科部会での話し合いが必要である。</p> <p>学年団の構成メンバーによって、チーム力に大差がある。今後、教師集団の良きリーダーの養成を図っていかなければならない。</p>
<p>・<u>新任教師には直接的、間接的にそれぞれの教師が個々に関わり、本学の建学の精神や教授力を伝えていくことができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者対象の研修会を、計画的に校長教頭を中心として持つ。</li> <li>・他校で行われる研究授業に参加する機会をつくり、積極的に私小連サークルなどにも参加する。その上で、教師一人ひとりがその授業を分析し、検証できる力を養成する。</li> <li>・教師一人ひとりが積極的に授業を公開し、相互に意見を交わし合うことで、教授力、授業技術の向上を図る。</li> </ul>	<p>良き先輩としてリーダーシップを発揮し、後輩によく関わった教員もいる。</p> <p>年度初め、長期休暇を利用して、特に建学の精神を中心に実施してきた。</p> <p>各種研修会への案内を掲示することによって、紹介してきた。</p> <p>個人研修授業を奨励した</p> <p>(特記事項)</p> <p>平素は、管理職、初任者共に多忙であり、スケジュールの調整が難しく、当初の予定通りには実施できなかった。</p> <p>校務多忙にかまけて、積極的な参加がなされなかった。教師によって、格差が生じた。授業への意識改革が必要である。</p>

・ノートづくり

・「ノートづくりは人づくり」を合言葉に、日々すべての教科に展開し、学習習慣の定着を図ると共に、強い精神力・生活力を養っていく。しかし、形骸化しないよう、何よりも徹底するという初心に立ち戻る。

・「書く」ことからさらに表現力向上のための指導を行う。

作文指導の研究を深め、児童の表現力を伸ばす。

長年積み重ねてきた「書く」ことの実践は、本校の特色として、入学を望まれる保護者の方々へと根付いてきた。

すべての教師が、すべての教科指導の中でこの取り組みを実践していくよう促した。また、教師自身も、教材研究におけるノート作りをさらに充実したものとするよう呼びかけた。

「ノート・レポート」をテーマにした研修を盛り込み、各教師の課題に従ってレポートを仕上げた上で、グループディスカッションを実施した。(10/29)

各教師がそれぞれに取り組んだ。

記述力を高めるよう目指したが、十分でなかった。

(特記事項)

教科によってどの場面で「書く」ことを取り入れるのか工夫が必要である。

今後、保護者に対しても「なぜ書くのか」という目的を理解していただく必要がある。

初任教師に対し「書く」ことに取り組む本来の意義をしっかりと継承していかなければならない。

「作文指導」をテーマとした研修を実施し、本校として、発達段階に合わせ系統だった指導カリキュラムの作成が必要である。

<p>・<u>学校行事</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常にマンネリに陥らないよう、小さな変革を常に工夫し、実行していく。</li> <li>・低学年から高学年に至るまで、縦の学年における各種行事の系統化を研究し、出来ることから即、実行に移す。</li> <li>・宿泊を伴った合宿においては、必ず実踏を実施、保護者に対して説明会を行う。</li> <li>・野外活動に関する研修を実施して、より安全な行事を目指す。</li> <li>・<u>低学年でのサマースクールの実施場所の変更に伴い、プログラムを工夫する。(於:ユニトピアささやま)</u></li> </ul>	<p>各学校行事、宗教行事において学年部のチーム力と個々のタレント性を活かして工夫を行い実施した。</p> <p>秋の遠足では、行き帰りの安全性を重視し、交通手段を電車から、バスに変更した。</p> <p>下見は、直前にも行き現場の実体を把握し実施した。保護者説明会も実施した。</p> <p>チェックポイントを中心に、研修(4/26)を行った。 (特記事項)</p> <p>D・B 生誕 200 周年のオープニングセレモニーでは、学園が一つとなって企画、計画、運営、実施を行い大きな成果を得ることができた。</p> <p>バスのキャンセルができないので、雨天時の目的地を開拓する必要がある。 立地条件、施設、環境共に適していた。</p>
---	---

<p>・<u>児童生活指導(躰)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が、共通の意識を持ち、指導方法の研修を行う。</li> <li>・重点目標を定め、徹底的に指導にあたる。</li> <li>・学校(集団)生活におけるマナーを身につけさせ、繰り返し継続して指導にあたる。</li> <li>・マナーを守ることは、周りの人への思いやりでもあることを認識させる。</li> <li>・校内外に関わらず、城星の児童である意識を持ち振る舞えるよう育てる。</li> </ul>	<p>「揃える」をテーマに 昨年度、3 学期から取り組んできた。</p> <p>* 靴、列 等</p> <p>教員による登下校指導を実施し、また保護者による下校の見守り当番もお願いした。 (特記事項)</p> <p>継続し定期的に意識付けを行っていかねばならない。全児童が、完璧に身に付けられるようになるまではまだまだ程遠い。永遠のテーマかもしれない。</p>
--	--

<p><b>・宗教的価値観の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何よりも、ドン・ボスコの生き方を、教師は絶えず自己の行動と照らし合わせ、日々子どもに向き合い、教育の寛容と厳しさを身につけるよう、さらに研鑽を深める。</li> <li>・教師としての威厳をどう保てばよいのか、創立者の生き方から学んでいく。</li> <li>・カトリックミッションスクールの教師として、私たちは、聖書の学びを疎かにすることはできない。具体的には、全教員が宗教科道徳での実践と、祈りの集いの充実を図っていく。</li> <li>・現代カトリック教会の方向性や、姿勢に関心を持ち、謙虚に学んでいく。</li> <li>・子どもたちの言葉や行いを、福音的価値観で統合したり、導いたりする力を私たち自らがつけていく。</li> </ul>	<p>ドン・ボスコ生誕 200 周年に向けて、黒板に D・B のことば 100 から選び情事記載し、視覚に訴えることから、彼の生き方を教師も児童と共に深めた。</p> <p>夏の教員一泊黙想会の課題とし、考えを深めた。</p> <p>専科教諭も、宗教科道徳の授業に取り組んだ。（特記事項）</p> <p>言葉として捉えるだけに留まらず、日々の教育活動の中で実践に繋げていかなければならない。</p> <p>日常的に聖書に親しみ、あらゆる場面で、福音的教育を展開できるように努めなければならない。</p>
<p><b>・読書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書月間を設けたことによって得られた利点を継続し、実践していく。</li> </ul> <p>但し、容易な読書に陥らないよう、良書を選びとる力をつけると同時に、私たち教師も読書に勤しむ。</p>	<p>(学期ごとに 1 か月)</p> <p>児童が落ち着きをなくしやすい時期に、朝のひと時を静寂に過ごさせる時間とした。</p> <p>(特記事項)</p> <p>教師も共に本に向かい、良書を紹介したり、与えたりする時間としたい。</p>

## 2) 募集活動報告：小学校

平成26年度 事業計画	報告
<p>(要項、リーフレットなどの作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内 7,000部</li> <li>・募集要項「光の子」 2,000部</li> <li>・ポスター 100部</li> <li>・入学願書早期配布(3月22日 学校説明会より) <ul style="list-style-type: none"> <li>第1次試験 10月1日</li> <li>第2次試験 2月4日 定員の充足を図る</li> </ul> </li> </ul>	<p>学校案内のリニューアルを行い、配布した。</p> <p>業者選択も複数によるコンペディションを行い、決定した。より良いものに仕上げるため、業者と一体となり、多くの時間をかけレイアウトや内容の検討を行い完成させた。</p> <p>(特記事項)</p> <p>ターゲットを入学希望児の保護者の年齢層にあて、特に母親の気持ちを引き付けるものに仕上がり、非常に評判の高いものとなった。</p> <p>また、経費を非常に格安の制作費で完成させることができた。</p>
<p>(学校説明会(学園内外)の開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクール 4月17日、5月9日、13日、9月3日 <b>4回実施</b></li> <li>・学校説明会 3月22日、6月28日</li> </ul>	<p>予定通り、実施した。</p> <p>オープンスクール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 142組</li> <li>第2回 106組</li> <li>第3回 126組</li> <li>第4回 287組</li> </ul> <p>学校説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 241組</li> <li>内 体験学習 200名</li> <li>第2回 226組</li> </ul> <p>(特記事項)</p> <p>非常に多くの参加者に恵まれた。</p> <p>参加者の収容場所拡大のため、会議室から講堂へと移した。</p> <p>2次試験のための説明会または、オープンスクールの必要の有無を検討する必要がある。</p>

<p><b>(幼稚園・塾訪問)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各幼児塾に要請を受けると共に、<b>エリアを拡大し積極的に働きかけ、説明会の機会を求めていく。北摂、京阪沿線への進出</b></li> </ul> <p>前年度に加え TAM, 伸芽会, パドマにて教育講演を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模擬試験会場提供にできるだけ応え、その場をつくっていく。</li> </ul> <p>6回実施予定 ・小学校受験標準テスト ・奨学社 2回  ・能開プレスクール ・理英会 2回</p>	<p>エリア拡大のため、TAM(枚方)へアプローチし、教育講演をさせていただいた。さらに、関西への進出で塾生を伸ばしている伸芽会においても、教育講演を実施した。この他、本校入学者の多い、パドマ幼稚園においてシンポジウム、蓮美塾において、パネルディスカッション、さらに東高殿幼稚園にも招いていただいた。</p> <p>予定通り実施した。</p> <p>(特記事項)</p> <p>児童募集増に、どれだけの効果があるかは、見えないが、幼稚園・塾との関係は、欠かせないものである。</p> <p>本年度は特に、東高殿からの志願者が倍増した。</p> <p>知名度を上げるという観点から、業者が実施する模擬試験には、積極的に場所を提供していくことも広報活動となる。</p>
<p><b>(広告媒体の活用)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第四回 関西私立小学校展 4月6日参加予定</li> </ul>	<p><b>入場者 約 1300 人</b> (505 組)</p> <p><b>本校個人相談者数 86 組</b></p> <p>回を重ねるごとに入場者が増えてきている。</p> <p>(特記事項)</p> <p>ブースへの個別相談者が、引っぱり無しに続いた。相談フリースペースが限りがあり、待たせてしまうこともあった。応対者の増員も必要である。</p>

<p>(その他)</p> <p>内部幼稚園園児と児童の交流の場を設定する。</p> <p><u>受験者への対策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部中学校と連携を深めながら、高学年の早期より潜在的な希望者を探り起こし、内部進学者を増やす。</li> <li>・計画的に出前授業を実施</li> <li>・<u>教員、児童、生徒の交流を図り相互理解を深める。</u></li> </ul> <p><u>※交換研究授業、合同クラブ活動などの実施</u></p>	<p>1年生の生活科での「年中さんと遊ぼう」に年中児を招いて交流した。</p> <p>担任からのブローチにも試みたが、内部進学を希望するものを増やすことはできなかった。</p> <p>(昨年度同様 6名)</p> <p>英語科、社会科、理科で実施された。</p> <p>(特記事項)</p> <p>兄弟の少ない児童たちが増える中、小学生にとっては、年下の子どもをかわいがり、思いやる心を育てる良い機会でもある。また、園児たちにとっては、小学生への憧れとなってくれることを期待したい。</p> <p>15改革に期待した。</p> <p>年度末の行事予定作成時に日程、教科、対象学年を決定し、小・中の連絡を密にし、準備していかなければならない。</p> <p>単発的に実施するのではなく、日常的に行われることを期待する。</p> <p>実施後に反省会(振り返り)を合同で行い、実りあるものにならなければならない。</p>
--	--

### 3) その他：小学校

平成26年度 事業計画	報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間研究授業 8教科8回以上（新任研究授業含む）</li> <li>・創立者ドン・ボスコ研修 年2回</li> <li>・聖書を中心とした宗教研修 年2回（場合によっては、外部講師要請）</li>   <li>・作文（学級通信含む）年1回以上</li> <li>・「ノートづくりは人づくり」をテーマにしたレポート 年2回以上</li> <li>・心肺蘇生法 年1回</li> <li>・次世代を担う、リーダーの養成</li> <li>・教員黙想会1泊2日</li> <li>・近畿カトリック学校教員養成塾</li> <li>・西日本私立小学校連合会春秋研修会</li> <li>・全国私立小学校連合会全国研修会（地元開催につき参加者増）</li>   <li>・西日本私立小学校連合会主催新任研修会派遣</li> <li>・大阪府私立小学校連合会主催新任研修会派遣</li> <li>・その他必要に応じた研修会参加</li> <li>・研修要集録作成</li> </ul>	<p>計画通り実施。</p> <p>6月と11月に実施。</p> <p>本年度は、1/14に1回実施(生田副理事長による イタリア巡礼報告)表記についての研修を実施。</p> <p>本年度は10/29に1回実施。</p> <p>6/2に実施。</p> <p>実施できず。</p> <p>8/26,27に実施。</p> <p>足立教諭が受講</p> <p>全員参加</p> <p>半日研修会 算数部会</p> <p>本校を会場とし実施</p> <p>本校より、4名参加</p> <p>同教頭研修会 亀谷教頭が、実行委員長を務め、盛会に終える。</p> <p>稲津教諭、井上教諭参加</p> <p>デンマーク体操(運動会ダンス)研修に4名参加</p> <p>夏季音楽科研修会に2名参加(畑中、漆山) 宗教部会(戸井田、小島) 食物アレルギーと喘息(金堂)</p> <p>(特記事項)</p> <p>D・Bの教育の実践とこれからの歩みを続ける。</p> <p>年間5回の授業研究を中心とした研修に参加し、また他校の教員との情報交換の機会ともなった。</p> <p>今後の授業に生かせる教材開拓の機会になった。</p>

## 1) 教育活動報告：中学校・高等学校

「15 改革」による教育の刷新を目指す

ー ドン・ボスコの教育の心を探究し、生きるー

(育成する生徒像) 「主体的に考え、行動し、学ぶ生徒」

平成26年度 事業計画	報告
<p>実施計画</p> <p><b>* 「15 改革」のスタート年に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「15 改革」の内容の共通理解の強化と改革内容の具体的施策をより充実させるため、各部、コース、教科レベルの会議を活発化するよう努める。</li> <li>・現在実施している各教育活動を、「15 改革」に向けて精査する。</li> </ul> <p><b>* 「15 改革」に向けての教員の意識改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集のために、自分の立場でできることに徹する。</li> <li>・お互いに気持ちの良い挨拶を交わす。</li> <li>・所属するクラス、学年、教科を越えて、全ての生徒に関心を向ける。</li> <li>・生徒について、また教員同士互いに肯定的な見方、言動を心がける。</li> <li>・整理整頓、節電・節約を実行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「15 改革」による刷新のための検討会の積重ね。</li> <li>職員の退勤時間の意識化。</li> <li>・9 月より個人面談実施。</li> </ul> <p>各教員に、組織人としてのあり方を指導し、不足を指摘し、改善を求めた。</p> <p><b>&lt;教育目標の全体の検証として&gt;</b></p> <p>目標設定自体が、実現性の低い、効果性の無い、曖昧なものが多くあったことが、今年度の検証全体から浮かび上がった。</p> <p>それを繰り返してきた過年度までの中高の体質を認め、次年度の目標設定については、各部署と 15 改革における施策、その優先順位を見定めながら審議し、決定する。</p> <p>「15 改革」において最も大事なことは、教員の意識改革であるとの認識から、特に、『<u>組織としての動き</u>』を重視した一年であった。そのために、管理職からの働きかけや指導、呼びかけが必要な場合はそれを行い、横の繋がり、慣習や個々の人的結つきで構成されていた環境に、しっかりとした縦の繋がり構築が加えられた。</p> <p>多くの教員は、管理職の指導、改善を求める話し合いを前向きに受けとめて、その後努力する姿勢をもつことができた。</p>

### 1. 生徒の主体性を育成する教育的な関わり（アシステンツァ）

・自立した生き方、主体的な生き方につながるキリスト教精神による教育とドン・ボスコの教育、特に、「アシステンツァ」への理解を深める。

#### ※「キリスト教教育を考える会」6月実施

「アシステンツァ」についての各教員の深化、発表（職員会議にて）

・朝終礼の祈りと聖歌に向かう姿勢、社会人としての礼儀、マナーの指導について、より意識をもって行う。

※「総合学習」の時間の中で、小笠原流礼法（各クラス年5回）、小原流生け花（各クラス年3回）継続実施。担任、副担任も同席。

・ホームルームや教科における指導、また行事を通して、個々の生徒との関わりをもち、それぞれの生徒の現実からスタートして、生徒と共に目標に向かう。

・「キリスト教教育を考える会」（Fr.ジョバンニ、カトリック尼崎教会主任司祭の指導）実施。  
・職員会議の冒頭にて、ドン・ボスコの教育精神について短い講話を実施。

・マナー指導

小笠原流礼法、小原流生け花 \*各クラス（中学は学年毎）で授業実施

（特記事項）

毎週火曜日の職員朝礼時には、輪番で福音書を読み、毎日の放送朝礼時には、聖フランシスコ・サレジオの言葉を生徒と共に聴くことで、教員も生徒も、キリスト教、サレジオの精神に触れる短い時間を継続してもつことは、数値的な結果では表現されない結果を生んでいる。

講師による礼法の指導がその場限りのものにならないよう、教員による生徒の日常的な礼儀やマナーの指導が必要であり、その点について、教員と生徒との関わりにおいて馴れ合いになっていると思われる場合には、注意を喚起した。

次年度は、小笠原流講師派遣は変更する。

### 2. 教員の授業力の向上

・校内研究授業、教科内研究授業によって、互いに評価し合い、自らの授業に課題をもって臨む。

※授業アンケートの活用については、高い経費の反面、個人レベルを超えての活用がなされずにきたことから、今年度は外部業者のものは実施しない。但し、教科に対する生徒の声を聞く手段を検討実施する。

※校内研究授業6月・11月実施

教科内研究授業4月・9月実施

・教科指導について自己研鑽する。

・長期休暇に行われる外部団体の研究会への参加後、教科内で共有する。

※研究会には各教員が年に1回は参加する。

※他校の進路指導のあり方から学ぶために、他校訪問を計画。

今年度は、研究授業の形を変更し、全教員が1回研究授業を行い、その研究授業を同じ教科の教員はもちろんのこと、他教科の教員も自由に授業を見ることで、教員の指導力や生徒の理解度などを見ながら授業力のUPに取り組むように、という提案を年度初めに行い実施するよう教務からの呼びかけを行った。

また、外部の研究会にも参加を促した。

（特記事項）

来年度は、教科毎の課題研究に加えて、授業者としての力量を身につけることを目的に、外部講師による研修会を複数回実施することになる。」教科毎の課題研究に加えて、授業者としての力量を身につけることを目的に、外部講師による研修会を複数回実施することになる。

### 3. 進路指導の充実

- ・内部進学数 100%を目指す。

※小→中 10名/51名、中→高 18名/20名

内部中 3 生徒、保護者に対する 15 改革の高校の説明会実施 4 月

個人面談、三者面談実施をはじめ、出来るだけ多くの教員が中 3 生徒と関わり、本学園の高校に進学するよう協力体制を強化する。

内部小学校対象説明会の実施（日程を検討中）

- ・学力向上のための具体的施策の実行

※中学：落ち着いた姿勢で授業に臨むための生活指導の徹底。

「生活記録帳」に始まる家庭学習の徹底のための指導

高校：進路達成目標を明確にしていく指導の徹底

「復習ノート」に始まる充実した家庭学習の徹底のための指導

- ・模擬結果データの分析等、志望進路達成のために、学年、コースの進路指導に対して進路指導部が積極的に関わる。

※高校各学年の進路検討会を開催する。

- ・進路指導に関するイベントや説明会等のあり方を検証し、より充実を目指す。

- ・内部小対象説明会実施（6/13、10/10）、全中学生保護者対象の説明会実施（4/29）、中学各学年進路説明会実施、

- ・内部進学数結果：

小→中 6名、中→高 15名

- ・中学全学年において「生活記録」を継続的に実施。
- ・2015 年度以降実施する「リスニング」を中 1 で先行導入。
- ・高校では学年に対応して「生活記録」の継続、復習ノートの実施。
- ・模試データの活用法を校内で共通認識を持つ為、外部業者に依頼し、「校内分析会」実施。
- ・特進の夏期合宿再検討。

（特記事項）

- ・内部進学向上の為に、次年度、別の側面から施策を検討する。
- ・「リスニング」の導入については、概ね良好ではあると考えられるが、実施方法については、学年（教科）に依存している部分が強く、包括的な実施に向けて議論を要する。
- ・高校における学習については、今後、  
「オリジナルテキスト」の作成を通し、一元化できるよう工夫をしていく。
- ・合宿での問題、課題について議論し、より有意義なものとして提供できるよう、検討できたことは意味があった。

### 4. コースの特色の明確化

- ・15 改革における中学校のコース制廃止に伴う学級編成と習熟度別授業を、今年度の中 1 学年の体制を参考にする。

- ・15 改革に向けて、高等学校のコースの特色の明確化について、特にカリキュラムの研究を行う。

- ・英語・数学・理科を習熟度別授業で実施、朝学習でリスニングを実施した。

- ・総合進学コースは得意な教科を伸ばす、特別進学コースは苦手な教科も含めて 5 教科を伸ばすカリキュラムをつくる。

（特記事項）

総合進学コースは私立大学、特別進学コースは難関私大・国公立大を受験できるカリキュラムをつくることのできた。今後は教科指導・進路指導の充実をはかっていきたい。

#### 5. 安心して学べる教育環境作り

- ・教員間の日常的な情報の共有を積極的に行なう。
- ・保護者との連絡、学年、学級懇談会により、保護者と学校が同じ方向を向いて生徒の指導にあたる。

※生徒指導事象については、担任・学年と生徒指導部との連携をしっかりと行う。

中高の「いじめ防止基本方針」を公表する。

- ・生徒の安全を常に意識し、生徒にも自己管理の重要性を意識づける。

※中高としての危機管理体制について検証し、体制づくりを始める。

防災、防犯、薬物乱用防止、情報教育の実施（警察等、外部講師に協力依頼）

- ・教育支援の組織的な動きを目指す。

※教育支援についての規定の改正

教育支援担当者と対象生徒をもつ担任、学年団によるケース会議実施

#### 6. 組織力の向上

- ・部長会を設置し、管理職と共に中高の組織の強化と円滑さを目指す。

この為、「教頭補佐（統括部）」は置かない。

- ・活動実施後の検証を各部署で徹底する。
- ・会議録を作成し、管理職に報告する。

- ・問題行動の指導において、管理職、生指部、学年団が連携。

- ・「いじめ防止基本方針」を公開した。

- ・保護者と連絡（面談、電話、など）協力体制を築いた。関わりの難しい保護者に対しても、  
る限り数多く面談を重ね信頼関係を築けるように努めた。

- ・安全管理、危機管理の意識向上喚起。（個人情報保護、いじめ、薬物等 薬物乱用防止教室  
実施（11/6）

- ・教員の個人情報の守秘義務への注意を喚起した。

- ・教育支援メンバーの組織的な動きを行った。規定の見直し。

- ・部長会はおかず、管理職と部長との密な連絡、相談を行った。運営委員会を再検討。

（特記事項）

- ・管理職、生徒指導部、学年団との連携を適切にとることができた。また学校としての指導方針がぶれることなく明確に示すことができたことは問題解決に向けて大きな力となった。

- ・校則における生徒指導上の対応にあたって教員間の認識の違いが少し見られるところがある。  
放置しておくとならぬ生徒との信頼関係も揺らぎかねない。教員間での共通認識をしっかりと固め適切な指導ができるようにする。

- ・安全管理については、常時注意を喚起し、学校生活も校外学習時も安全に過ごすことができた。

- ・今年度は、支援対象生徒と担任、学年、教科担当の関わり方にも変化が出た。

## 7. その他

### 小学校との連携

- ・小学校の研究授業に参加する。
- ・小学校との連携について、出前授業の持ち方を検討する。
- ・小学校からの進学者数向上のために、入試広報室による企画を中心に、中高からの働きかけを強化する。

### JAT との連携

#### 校内研修

- ・ドン・ボスコ生誕 200 周年にあたり、ドン・ボスコの教育について深める場をもつ。
- ・「キリスト教教育を考える会」の実施（6月）
- ・初任者研修の実施（4月、その他年間6回）
- ・人権の教員研修の実施（8月）

- ・小学校の研究授業へ十分に参加できなかった。
- ・英語、社会、理科の3教科で出前授業を実施した。
- ・ドン・ボスコ生誕 200 周年オープニングセレモニー、城星フェスタでの記念を実施。(9/26)  
ドン・ボスコ教員研修会（12/22）
- ・キリスト教教育を考える会を実施。(6/25)
- ・初任者研修を実施。(4/3)
- ・人権教育教員研修会（8/25）  
（テーマ：多文化共生）を実施  
（特記事項）

授業や授業の準備などで小学校の研究授業に参加できなかった教員が多数である。しかし、参加した教員にとっては「書くことの大切さ」などを改めて理解するよい機会となった。内部進学者向上のため、出前授業のあり方、部活動体験など再検討している。

学園全体の記念行事と同時に、中高としても、行事をはじめ折に触れて、創立者の教育精神に立ち戻る機会をもつことを意識することができた。この記念の年に対する教員、特に司牧部、生徒会の教員の意識は高く、生徒の活動の方向付けもしっかり行った。

## 2) 募集活動報告：中学校・高等学校

平成26年度 事業計画	報告
<p>(要項、リーフレットなどの作成)</p> <p>1. パンフレットやリーフレットなどは、「15改革」の内容が適確に伝わり城星学園に対する期待度が向上することを主眼に、従来の内容に捉われることなくゼロベースで作成する。それを達成するために複数の業者によるコンペを行い、最適な業者を選定する。</p> <p>2. <u>パンフレット・案内チラシなどは、城星学園中高が変わったことを強調するインパクトのあるものを作成する。</u></p> <p>3. 入試問題集、募集要項・願書は従来形式を基本に作成する。</p> <p>4. <u>郵送による出願受付の是非について検討する。</u></p> <p>5. 上記印刷物は、効果効率を念頭に配布機会と対象を吟味し、適正数を作成する。</p>	<p>1. パンフレット→(増刷)  (中学) 5,000  (高校) 7,000→2,000</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット 1,200→2,000</li> <li>・フライヤー 40,000→3,000</li> <li>・ポスター 1,205→400</li> </ul> <p>入試問題集(中学) 1200部  入試問題集(高校) 1400部</p> <p>2. 今年は出願受付を郵送にて実施、特に混乱もなく効果はあった。</p> <p>(特記事項)</p> <p>今年度は、新制服等のアピールを図るためポスター・パンフレットを一新しました。インパクトのある印刷物は、本校を知ってもらえるきっかけとなり効果的であった。</p> <p>郵送による出願は、多くはなかったが、受験生にとっては効率が良い面もあり、次年度も継続する必要がある。</p>

<p>(学校説明会(学園内外)の開催)</p> <p>1. 学内イベントとして下記を実施する。</p> <p>① 中学受験イベントとして、内部小学生保護者説明会(複数回)、オープンスクール(6回)、体験学習会(2回)、クラブ体験(1回)プレテスト(2回)、入試セミナー(3回)を実施する。</p> <p>② 高校受験イベントとして、オープンスクール(4回)、体験学習会(1回)、クラブ体験(2回)、入試説明会(3回)、入試対策セミナー(1回)を実施する。</p> <p>③ <u>プレテストの1回目の開催は11月上旬→10月中旬に早め、早い時期に結果のフィードバックが出来るようにする。</u></p> <p>④ <u>「受験候補生や保護者が参加しやすいように」との趣旨から、中高合同のオープンスクールのうち1回は日曜日に開催する(9月21日)</u></p> <p>⑤ 塾を対象に学習塾説明会を3日間開催する。</p> <p>2. <u>「15改革」を中心とした説明資料(パワーポイントなど)の作成を行い、変革に向けた城星学園の熱意が伝わる様に努める。また、参加者の城星学園に対する好感度がアップする様、見せ方を工夫した企画を検討・実施する。</u></p> <p>3. 学外イベントとして、女子中フェスタ、キリスト教学校フェア他、新聞社、塾実施のイベント、および中学校合同説明会に参加する。</p> <p>4. 内外イベントにおいては、受験生・保護者に対し、在校生の学園生活に触れてもらえる企画や、在校生・卒業生から城星学園の魅力を直接訴える企画を実施する。</p> <p>5. 在校生・卒業生が、日常生活の場で友人や知人などに城星学園をアピールしてもらえる様、協力を仰ぐ。</p>	<p>学校説明会は予定通り実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部説明会中学入試 小6年生のみ参加数218人・他学年参加数66人、合計284人(昨年115人)</li> <li>・外部説明会中学校入試 小6年生のみ参加数73人 他学年参加数70人、合計143人(昨年78人)</li> </ul> <p>高校入試内部説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中3年生のみ参加数258人、他学年参加数51人、合計309人(昨年129人)</li> <li>・高校入試外部説明会 中3年生のみ参加数348人、他学年参加数43人、合計391人(昨年145人)</li> <li>・内部イベントにおいては、 適宜在校生の協力参加を仰ぎ企画を実行した。 (特記事項) 生徒会・キャンパスナビゲーターの協力もあり、内部イベントは毎回、多くの参加者が来校してくれた。ランチタイムの機会は、おもてなしの良い時間となり保護者児童・生徒には好感度は高かった。</li> <li>・塾対象説明会の日程を2日間とした。参加申し込みが、150名を超えるほどの結果となりました。 これは、今までにはなかったことであるが、「15改革」に興味を示してもらった結果であると考えます。</li> <li>・入試対策セミナーに関しては、教員の解説説明など、工夫がなされていて受験者にとって理解しやすくレベルの高いセミナーであると外部コンサルティングの方より、評価が高かった。</li> <li>・様々な取り組みから振り返ると、本校に対する興味・関心を持ってもらえることが出来た。しかし、受験数には繋がらない厳しい結果となった。しっかりと検証し、次年度に向けて改善すべきである。</li> </ul>
---	---

<p>(学校・塾訪問)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>塾・中学校訪問は、過去の訪問内容と受験実績との相関分析をもとに、確実に訪問を実施する。</li> <li>主要訪問先と一般訪問先の分類を行い、それぞれに適した訪問を徹底して行う。</li> <li><u>塾・中学校訪問については、入試広報以外の先生方の協力を仰ぎ、教員が一丸となり活動する。</u></li> <li>城星学園卒業生が出身の中学校や学習塾に対して、進学先の報告など、より細かな情報提供ができる体制を整備する。</li> <li><u>特に塾に関しては、生徒の学園での様子について密に情報提供し、連携を取りながら生徒の指導・育成を行う。</u></li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪市の中学校訪問に関しては、広報担当者がぶれることなく訪問を繰り返し、広報活動を実践できた。</li> <li>他市の中学校・塾訪問と出来る限りの広報活動を実施したが、事務的業務が重なり、中学訪問・塾訪問と効率よく訪問することができなかった。一層の広報活動が必要であり、塾・中学との連携がとれるように、様々な面において体制を見直す必要がある。</li> <li>入試広報以外の先生方への中学校・塾訪問を依頼することができなかったため、協力を仰ぎ実施すべきであった。</li> </ul> <p>(特記事項)</p> <p>4月～12月の実績(延訪問実績)</p> <p>中学訪問＝605件訪問 (2013年度＝248件訪問) (2012年度＝424件訪問)</p> <p>塾訪問＝895件訪問 (2013年度＝421件訪問) (2012年度＝419件訪問)</p> <p>全体＝1500件 (2013年度＝669件訪問) (2012年度＝843件訪問)</p> <p>※中学・塾外回りの担当者が少ない現状の中であったが、宣伝活動を行った。</p>
---	---

<p>(広告媒体の活用)</p> <p>2012年度～2013年度に実施した広告媒体の検証を行い、より費用対効果の高い媒体を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広告媒体の検証を行った結果、入試広報の予算では前年度レベルの広告掲載であった。本校の認知度が低いので広告を拡大していきたいのだが、現状ではこれ以上の負担は難しい。</li> </ul> <p>(特記事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広告媒体は現状分析と発行対象をしっかりと調査した上で、的確に実行した。</li> </ul>
---	---

<p>(その他)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>15改革・教育プログラムの改定と取り巻く環境を踏まえ、相談基準（中学校用・学習塾用）の見直しを行う。</u></li> <li>2. ホームcomingデーおよび大阪市立中学校吹奏楽発表会協賛については例年通り実施する。</li> <li>3. 剣道部特別推薦（優遇措置）、入学試験制度実施。</li> <li>4. 配布グッズは外部イベント参加者用と内部イベント参加者用を分けて作成し、費用対効果の向上を図る。</li> <li>5. <u>2015年度中学高等学校入試の募集に向けて、外部コンサルティングの客観的な知見を加えることで確実な入学者数の増加を図る。</u></li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談基準においては、中学校のコース制が無くなったため、他校との相談基準も配慮し、コンサルティングの意見を聞きながら現状分析を行い決定。</li> <li>・ホームcomingデー・大阪市立中学校吹奏楽発表会は予定通り実施。</li> <li>・外部コンサルティングの指導に関して、大変効果的であったことは、特に塾対象説明会である。塾長より、クレームも無く終了することが出来た。内部説明会・オープンスクールに関しては、客観的な知見でのアドバイスを頂き勉強をすることができた。また、渉外活動にも活かすことができた。</li> </ul> <p>次年度も、継続する必要がある。</p> <p>(特記事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道部特別推薦入学試験について報告</li> </ul> <p>優遇者 専願1名 入学・併願 各1名</p> <p>実施した成果はあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布グッズについては、費用対効果の向上を図った。</li> <li>・外部コンサルティングの客観的な意見は、内部イベントの参加者増に繋がった。</li> </ul>
---	--

## 2 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。

区分	工事・設備等名称	工事業者	執行月	概算金額（円）	実績金額（円）
共通	1. 校庭の雨水の排水調査	—	—	302,400	自主検査に変更
	2. 防火シャッターの安全化	MID	8月	756,000	745,200
	3. 講堂の舞台装置のワイヤー更新	サケンエンジニアリング	8月	1,665,036	646,920
	4. エレベーターのロープの更新	三菱	8月	759,240	74,520
	5. ※西側外部通路改修工事	竹中工務店	8月	—	2,926,800
共通（IT 関係）	校務システム導入	SIEMS	今年度	15,283,296	14,445,540
小	本館配管・桶塗装工事	MID	8月	2,138,400	2,138,400
幼	1. 幼稚園屋上の笠木取付工事	竹中工務店	8月	3,315,600	3,315,600
	2. ※※幼稚園西側配管塗装工事	竹中工務店	8月	—	※※2,095,200
SS	1. プール水槽内の塗装	—	—	3,240,000	来年度以降に延期
	2. 下駄箱の塗装	—	—	226,800	自主対応に変更
その他	守衛室内監視カメラ設置	MID	4月	888,840	888,840
計				28,575,612	27,277,020

※ 通路鉄柵の脱落発生に伴い、安全上のため臨時に工事実施。

※ ※ 幼稚園西側配管の塗装が剥離しているため、配管塗装工事を合わせて実施。

### 3 財務状況（報告）

生徒数減による帰属収入が減少している。特に中高生の生徒数を増やすことで、帰属収入の増加が求められる。

